

ケロッグマッサージの理論とその手法

和久田哲司, 和田恒彦,
野口栄太郎, 西條一止
筑波技術短期大学 鍼灸学科

The Theory and Methods of Massage by J.H.Kellogg

Tetsuji WAKUDA, Tsunehiko WADA,

Eitaro NOGUCHI, Kazushi NISHIJYO

Oriental Medicine Course, Tsukuba College of Technology

Summary

Although it has 100 years since the massage techniques developed by John Harvey Kellogg, an American, were introduced to Japan, not much of them are known today. This paper clarifies the characteristics of his theory and techniques as a method of physical therapy so they can be applied to clinical practices.

Our study mainly consists of the review of J. H. Kellogg's "The Art of Massage" (4thed. 1923). These massage techniques, a combination of massage techniques developed in Europe and osteopathy, an original idea developed in the United States, were systematized through his clinical experience at sanitariums over a period of 50 years or more.

Always based on strict physiological principles, Kellogg cited three types of comprehensive effects: direct "Mechanical", indirect "Reflex", and general "Metabolic" effects. He advocates that external manipulations are effective for building strength in the whole body and activating living power because they not only influence deep tissues of the body by improving general circulation and reactions of the nervous system but also on the metabolic renewal processes of the various parts of the body. He emphasizes these phenomena as the sources of large therapeutic effects.

Kellogg's massage techniques consist of seven types of basic manipulations (touch, stroking, friction, kneading, vibration, percussion, and joint movements), each of which is divided into several sub-types of manipulations, which are unique to Kellogg, according to his theory.

To improve the usefulness of current medical massage therapy, it is essential to review these unique techniques and apply them to clinical practices.

I 緒言

我国におけるマッサージ医療は1880年代(明治10年代)にマッサージ術がヨーロッパから導入されて以来、このヨーロッパからのマッサージ医療が主流となって今日にいたっている。しかし、このヨーロッパからの伝来ルートとは別に、アメリカにおいて John Harvey Kellogg (1852年～1943年) が開発したマッサージ術が日本に伝来しており、実際に行なわれて既に100年になる。

J.H. Kellogg によるマッサージ術を日本に初めて紹介したのは当時ボストン大学に留学していた川瀬元九郎医師であった。彼は1895年に Kellogg が “THE ART OF MASSAGE” (初版) を刊行すると、これを岐阜訓盲院(現、岐阜盲学校)院長であった森巻耳に紹介したのである。

森巻耳(1855年～1914年)は1897年これを「ケルログ氏マスサージ学」として翻訳し、同院学生のマッサージテキストとして活用し自らも指導に当たっている。こうして岐阜地域に始まった Kellogg マッサージは、後に全国の盲学校においてもこの翻訳書がマッサージ指導書として利用されるようになり、しだいに広く普及していったのである¹⁾。

しかし、Kellogg のマッサージ術はその後はヨーロッパから各種のマッサージ術が導入されるにつれて、Kellogg が長年にわたる sanitarium での実践を踏まえて医学として体系化された実用性の高いものであったにもかかわらず、一般の病院などへの普及には至らなかった。従って今日この Kellogg マッサージ術の内容についてはほとんど知られていない状況にある。そこで、Kellogg が理学療法の一つとして推奨するマッサージ術について、治効理論と、その手法の特性を明らかにして現今のマッサージ医療における臨床応用の一助としようとするものである。

II 方法

以下の2文献に基づき、Kellogg マッサージ術を考察する。

1) 現在日本に現存する原著第4版(1923年) “THE ART OF MASSAGE” A Practical Manual for the Nurse, the Student and the Practitioner By John Harvey Kellogg, M.D., LL.D., F.A.C.S.

2) 原著 “THE ART OF MASSAGE” (初版1895年) の翻訳書「ケルログ氏マスサージ学」(森巻耳訳1897年、活字復刻版1994年)

III Kellogg マッサージにおける治効

“The physiological effects of massage”²⁾ の項目を一覧にして整理してみると Table 1. のようになる。

このことから Kellogg はマッサージ術の生体に及ぼす効果を、マッサージの総括的效果、各組織・機能に対する効果及び局所的効果の三つに分けてみていることが理解出来る。

1. マッサージの総括的效果

Kellogg は数年にわたって試みた実験から以下のようにマッサージの著名な総括的效果3項を挙げる³⁾。

1) mechanical (機械的效果)：術者の手によって直接に組織に作用する単純な効果を示すものである。最も注目すべきは血流、リンパ液の流通を促すことなどの直接的な効果に加えて、内臓の転位が病因となるとしてその内臓を正しい位置に整復する効果を挙げていることである。

2) reflex (反射的效果)：脳脊髄神経及び自律神経の中枢並びに末梢との関連による体壁反射、腱反射、運動点などの反射作用を根拠とするものである。末梢からの知覚刺激は必ずその中枢に作用し、中枢は局所及び関連する部分に影響しその生活機能を変化させるものと捉えられる。これは Kellogg マッサージが最も重視する独特な治

Table 1 The Physiological Effects of Massage

<p>1. Overall effects of massage Mechanical-Reflex-Metabolic</p> <p>2. Effects of massage upon tissue and internal organs</p> <p>(1) Effects of massage upon the nervous system</p> <p>(2) Effects of massage upon the muscular system</p> <p>(3) Specific effects of massage upon the muscle nutrition and development of the muscles</p> <p>(4) Effects of massage upon the bones, skeleton, and ligaments</p> <p>(5) Effects of massage upon the circulation</p> <p>(6) Effects of massage upon respiration</p> <p>(7) Effects of massage upon the heat functions of the body</p> <p>(8) Effects of massage upon digestion</p> <p>(9) Influence of massage upon nutrition, hematogenesis, and phagocytosis</p> <p>(10) Influence of massage upon elimination</p> <p>3. Local effects of massage</p>
--

効機序で各手技にこれらの応用テクニックの工夫がみられる。

3) Metabolic (物質代謝の効果) : 身体の外からの刺激は循環機能や反射機転など様々なプロセスを経て深部に影響すると共に、各部の新陳代謝を高めるなど全身に影響し生命機構に作用するとするものである⁴⁾。

これは言い換えれば局所の反応は全体に影響し、しかも生命力を高めるといった東洋医学的感覚を認めていることを示すものであると言えよう。

2. マッサージの各組織及び各機能

身体の組織及び機能に対して、前述のマッサージの総括的效果を踏まえ “The physiological effects of massage” 一覧の(1)~(10)の項目、すなわち神経系統、筋系統、筋の栄養など特殊効果、骨・靭帯、循環、呼吸、体温、消化、身体の栄養状態や排泄への影響と、全範囲にわたり詳細に解説する。

他のマッサージと異なる特筆すべき点は、神経系統に対しては direct stimulating effects (直接刺激効果)、reflex effects (反射効果)、sedative effects (鎮静効果) 及び

restorative or reconstructive effects (回復・改造効果) の4種を挙げている。手技の力度に応じて種々の効果を現すもので、微妙な手技のテクニックが考案されている点に留意したい。

また、循環機能に対しては全身及び局所の効果は言うまでもないが、呼吸機能に対しても increase of respiratory activity (呼吸促進)、increase of tissue respiration (組織呼吸促進) を挙げその全身への有効性を強調する。更に排泄機能に及ぼす影響について increase of cell exchanges (細胞間物質交換促進)、increase of liver activity (肝臓機能促進)、increase of renal activity (腎臓機能促進) 及び promotion of skin action (皮膚活動促進) の四項目を挙げる。これはマッサージによって全身の老廃物の排泄を促し、ひいては肝・腎・皮膚の排泄機能を高めて全身状態の改善が図られるとする Kellogg 独特の治効観とも言えよう。

3. マッサージの局所効果

“Local effects of massage” として一項が設けられているが、その効果は前述の様々なマッサージ効果を局所的に総括している。即ち血液・リンパの流通促進、組織の再生

あるいは改造の増進、老廃物の吸収、筋・靭帯などの軟部組織の発達及び皮膚呼吸の促進等である。そして局所の刺激は体壁反射などの反射作用を介して諸内臓に影響を与え得るとする点に特徴がある。

IV Kellogg マッサージの手法の特徴

現行のマッサージ術は基本手技 6 種と運動法から構成されている。

Kellogg マッサージ術においても基本となる手技“procedures” 6 種類及び関節運動法“joint movements”を併せ 7 種に大別する。さらにそれぞれを幾種類かのテクニックに分けて応用するが手法的にはかなり他のマッサージ術とは異なる点が多い。特筆すべき点を挙げれば、施術の方向が遠心性にも求心性にも応用されている、皮膚・腱反射を利用している、また手技の特徴として結合織マッサージ的な superficial kneading を用いている、100年前に stretching という概念を joint movements の中に取り入れている、反射作用を応用した touch, stroking, reflex など独特な手技が工夫されている、更に内臓に対して「内臓の不調は全身に影響する」とみることから内臓器官の整復術と疾患への施術を重視することなどである。

Kellogg は“Preface”の中で、このマッサージの作用を他の光線、温熱などの理学療法、特に水治療法や、食事療法 dietotherapy との併用を推奨し、治療全般の効果を高め得ることを示唆している⁵⁾ことは注目値する。

1. Kellogg の手技 “procedures” (Fig. 1)

1) touch : passive touch—pressure—nerve compression

身体に術者の手部の各部を接触させて施術する。接触の強さによって 3 種に分ける。passive touch は神経過敏、ことに頭部、関節に軽く触れ疼痛、知覚麻痺、搔痒を減じ頭部では不眠症に有効である。鎮静効果が

あるとする Kellogg 特有の手技である。pressure 及び nerve compression はいわゆる圧迫法であるが後者は運動点 motor points (前面 20 点、後面 14 点)の圧迫によって鎮静作用を提唱しているところに特異性がある。

2) stroking : digital stroking—palmar stroking—knuckle stroking—reflex stroking

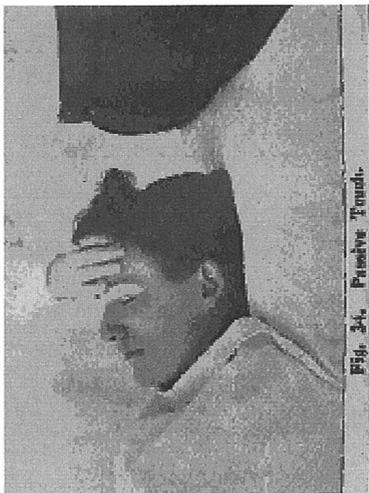
touch に運動を加えたもので二指、三指、手掌をもって軽く動脈の流れに従って原則的には遠心性に按摩する。四手技に区別されるが stroking reflex は Kellogg 自ら考案したもので皮膚反射領域に行なうものである。反射領域に加えられた刺激は反射機転を介して筋の収縮、内臓への影響をもたらす興奮効果を現す。具体的に reflex areas を示している。他の三手技は不眠症や知覚過敏及び神経痛などに対する鎮静効果、また用い方によって知覚鈍麻などにも応用する手技である。

3) friction : centripetal friction—centrifugal friction—circular friction—spiral friction—rotary friction

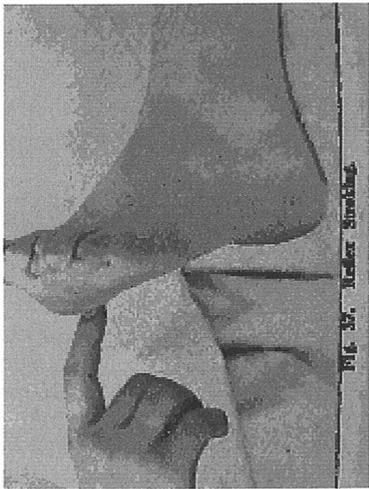
多少の圧力をもって手の全部あるいは一部で静脈血の流れに従って原則的には求心性に摩擦する。五手技に分類されているが centrifugal friction は内臓及び神経中枢の鎮静及び誘導を目的に遠心性に行なう点に特徴がある。これらの手技は主として循環機能の改善を目的にするところから水腫、関節や筋などの全ての炎症性腫脹あるいは充血による疼痛の軽減や不眠の解消などにも応用される。

4) kneading : superficial kneading—deep kneading—rolling—wringing—chucking—palmar kneading—fist kneading—digital kneading

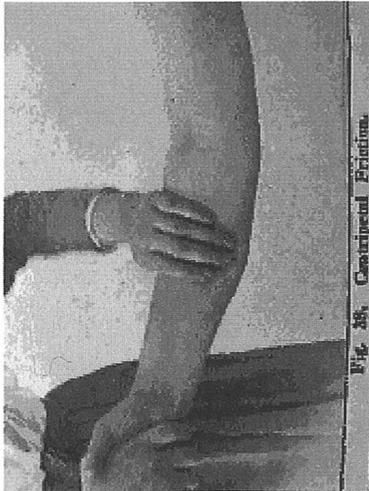
術者の手の各部で組織を握み、あるいは骨面に向かって押し揉む法である。この手技は superficial kneading と筋肉などを対



1 Touch



2 Stroking



3 Friction



4 Kneading



5 Vibration



6 Percussion

Fig. 1 The Procedures of Massage⁶⁾

象とする数種類の deep kneading とに大別される。前者は皮膚及び皮下組織に対して皮下の筋や骨から隔てるように刺激を加える手技で、皮膚の機能を高めるのに用いられ、既にこの時期に結合織マッサージ的な手法が行なわれていたことに注目したい。後者の諸手技は他のマッサージに比し、握る・回す・攪むなど微妙なテクニックを考案し軟部組織の疾患に対処しうるように図っている。

5) vibration : deep vibration—lateral vibration—knuckle vibration—superficial vibration—shaking—digital vibration

身体に振動を伝える手技で軽く接触あるいは攪んで行なう。vibration はどの手技においても深・浅部に直接影響すると共に、反射作用を介しての効果推奨するところに特徴がある。

6) percussion : tapping—spatting—clapping—hacking—beating—reflex percussion

術者の手部の各部を用いて身体を軽快に叩打する法である。やはり注目すべきは単なる機能亢進をもたらすのみではなく、vibration と同様に反射領域の叩打による反射効果を提唱している点である。

2. Kellogg の運動法 “joint movements”⁷⁾

各関節における他動、自動、抵抗運動を行ない、関節運動中、重要な方法として Table 2 にみるように屈曲、伸展、内転、外転、回内、回外、回転及び牽引を挙げている。特に stretching の推奨は注目されることである。

V 結び

Kellogg のマッサージ術はヨーロッパに発達したものにアメリカオリジナルな Osteopathy 等を取り入れ、50 年余にわたる “the Battle Creek Sanitarium” での臨床応用に基づいて体系化されたものであった。

その理論は常に生理学的効果を踏まえ、

Table 2 Joint Movements

Flexion	Extention
Abduction	Adduction
Pronation	Supination
Circumduction	Stretching

身体の外部からの作用によって各部の新陳代謝や神経、その他のプロセスを経て生体の深部に影響を及ぼすとするものである。特に循環の改善と生活力の形成に有効であり、しかも局所の反応は全体に影響するとする。

その作用機序としては、直接的な mechanical, 関節的な reflex, 総合的な metabolic の三種の治効作用を挙げる。

具体的な手法としては、基本手技 touch など 6 種に joint movements を含め 7 種とし、更にそれぞれを理論に従って Kellogg 特有の幾種類かの手技に分けている。

今日のマッサージ医療技術の向上のためにも、これらの独特な手法について再検討し実践応用することが肝要である。

参考文献

- 1) Kellogg, J.H. 著, 森巻耳訳: ケルログ氏マッサージ学. 墨字復刻版, 岐阜県立盲学校, 岐阜, 1994.
- 2) Kellogg, J.H.: The physiological effects of massage. In: The art of massage, Modern Medicine Publishing Co., Michigan, 20-41, 1923.
- 3) Kellogg, J.H.: The physiological effects of massage. In: The art of massage, Modern Medicine Publishing Co., Michigan, 20-21, 1923.
- 4) Kellogg, J.H.: Preface. In: The art of massage, Modern Medicine Publishing Co., Michigan, iii, vi, 1923.
- 5) Kellogg, J.H.: Preface. In: The art of massage, Modern Medicine Publishing Co., Michigan,

- vi, 1923.
- 6) Kellogg, J.H.: The procedures of massage. In: The art of massage, Modern Medicine Publishing Co., Michigan, 56-88, 1923.
- 7) Kellogg, J.H.: Joint movements. In: The art of massage, Modern Medicine Publishing Co., Michigan, 94-101, 1923.